

---

## 日本国内での「旧ジェネピック臨床研究の効果データ」について (2016年2月～2017年2月28日時点の中間集計データ)

---

2017年1月のGPCC(旧ジェネピック)臨床研究の実施プロトコルの変更に伴い、2017年2月28日時点で、GPCC治療の効果判定の中間データを集計し、発表致します。

なお、GPCC(旧ジェネピック)臨床研究は、2016年末の開発者トレーシー・ギブズ博士の来日後、2017年1月より、科学的エビデンスを活用した治療効果が更に見込まれる新しいプロトコルでの臨床研究がスタートしており、飲用時期や服用量、併用治療の推奨、適用条件など多くの項目で内容が変更となっています。そのため新プロトコルと旧プロトコルでの集計結果を合算する事が出来なくなるため、2月末をもって、旧プロトコルでの全がん種に対する効果判定の集計を行いました。

**※なお、上記期間(2016年2月～2017年2月28日)は大幅な製品欠品による悪影響がありました事を考慮の上で、下記データをご参照頂きたくお願い致します。**

### 【ジェネピック臨床研究の中間データ】

★全がん種に対する臨床的有效率は、以下の通りでした。

(85名中、CR=3名、PR=9名、SD=27名) = 45.88% (39/85)

2017年2月28日時点での参加医師からの全回答数(85)の内訳は以下の通りです。

判定	人数	%	累計%
CR	3	3.53%	3.53%
PR	9	10.59%	14.12%
SD	27	31.76%	45.88%
PD	46	54.12%	100.00%
合計	85	100.00%	

**★前回(前立腺がん+乳がん)を含む全がん種に対する臨床的有效率は以下の通りでした。**

**(131名中、CR=17名、PR+SD=57名) = 56.49% (74/131)**

今回の有効回答数には、前回白川先生が発表した数字が含まれていませんので、上記に、前回ビッグサイトにて白川先生が発表した前立腺癌と乳がんの数字を足すと、2015年6月に日本でジェネピック臨床研究を開始してから、これまでの臨床的有效率は上記の赤字の数字になります。